



SPORTS TOWN. GOTEMBA

富士山の麓でスポーツ交流

スポーツタウン御殿場 2024年度 事業報告書

スポーツタウン御殿場推進協議会事務局

2025年4月11日(金)



01

部会の開催状況

4 部会の開催状況

本協議会参画団体が4部会に分かれ、総会で承認を受けた事業計画の磨き上げや次年度計画に向けた意見交換を実施。団体間での情報共有や交流が生まれる副次的な効果が生まれている。

スポーツツーリズム部会

開催日：10月21日

協議内容：情報発信、PRグッズ、スポーツイベント誘致に関する事業について意見交換

開催日：3月5日

協議内容：各部会員の取組を共有。次年度事業計画について意見交換



スポーツ交流部会

開催日：8月20日

協議内容：各団体で行われている取組みについて情報共有、意見交換

開催日：3月3日

協議内容：各部会員の取組を共有。次年度事業計画について意見交換



サイクルスポーツのまちづくり部会

開催日：7月9日

協議内容：各部会員の取組を共有。自転車活用推進計画、フジイチのNCR指定に関して意見交換

開催日：2月25日

協議内容：各部会員の取組を共有。次年度事業計画や自転車活用推進計画について意見交換



空手のまちづくり部会

開催日：9月1日

11月24日

協議内容：

市空手道連盟理事会にて、各イベントにおける子ども達の演武出演依頼を行った。また、第三回空手道KMFC開催前には大会競技進行に係る打合せを行った。

第三回空手道KMFC開催前は市連盟以外の各方面関係者との調整を行った。

その他

次年度大会に向けた大会概要・選手選考、開催までの取組みなど、随時関係者と打合せを実施。

ホームページの管理・運用

御殿場市のスポーツ情報を網羅するホームページを運用。
本市の豊かな自然環境や魅力的なスポーツ資源をカテゴリごとに分けて紹介するほか、
様々な官民団体の行う市民向けのスポーツイベント情報を横断的に発信する。

スポーツタウン御殿場ロゴマークの活用

スポーツタウン御殿場設立に伴い、ロゴマークを作成。様々なイベント広報物やウェア等
へ使用可能。スポーツタウンの認知度を上げることで市内外に御殿場市のスポーツ情報を
発信し、多くの市民がスポーツに参画することでスポーツのまちづくりを促進する。

ホームページの管理・運用



HPへの記事投稿に加え、新たにInstagramを開設し情報発信に力を入れた。リアルタイムで情報を発信できる特性を生かした投稿と、HPへの誘導により閲覧数及び回遊率の増加につなげた。



内容

■ カテゴリー別記事更新数/102記事

○サイクリング	2記事
○ゴルフ	15記事
○乗馬・馬術	2記事
○アウトドアスポーツ	8記事
○空手	6記事
○スポーツライフ（市民向け情報）	27記事
○市所縁のアスリート	33記事
○市応援アスリート	9記事

■ HP 情報

- ユーザー数：64,211（昨年：58,282）
- ページビュー数：126,904（昨年：123,998）

令和6年度閲覧者の多いページトップ5

1. KMFC/9,891
2. トップページ/9,867
3. ちいさなMt.FUJII100/7,694
4. パレットごてんば/5,410
5. 富士登山駅伝/5,142

○パリ五輪・パラ五輪「市所縁のアスリート」

パリオリンピック・パラリンピックに出場する市所縁のアスリートを応援するページを特設。
選手紹介や試合結果を掲載。



■ Instagram開設

御殿場市のスポーツに関する情報をリアルタイムで、写真や動画を使ってより臨場感ある情報を発信するため、Instagramを開設。
（2024.4.22～）

○フォロワー数:671人

○投稿数/閲覧数

◇投稿:39投稿/22,470閲覧

◇リール動画:25投稿/16,382閲覧

◇ストーリーズ:171投稿/43,153閲覧



スポーツタウン御殿場ロゴマークの活用



スポーツタウンの認知度向上を図るため、広報グッズとしてロゴ入りポロシャツ、フリースジャケット及びウェットティッシュを製作。各種団体様にもロゴマークを使用していたっており、市民への認知度向上が図られた。

広報PRグッズの製作

■ポロシャツ

購入数：231着 販売時期：6月

申込団体：市職員、当協議会委員・関係者、教員、市民等

■フリースジャケット

購入数：247着 販売時期：10月

申込団体：市職員、当協議会委員・関係者、教員、市民等

ポロシャツは、クールビズシーズンに活躍するアイテムとして、フリースジャケットはR4年度に製作し、冬の防寒着として好評をいただいたため再度製作。

多くの方にご購入、ご着用いただいたことでスポーツタウン御殿場のPRとなった。

2022年からの累計購入数：1,938品

★令和4年度に製作したフリースジャケットは
UNIQLO UNIFORM2024秋冬カタログに掲載→



ロゴマークの使用申込

申込件数：4件

使用内容：大会冊子、チームウェア

申込団体：市野球連盟、NAKA-Möl Gotemba

ノベルティグッズの製作

■ウェットティッシュ

制作数：5,000個

多くのイベントで配布し、参加者や来場者への認知度向上につなげた。



③ サイクルツーリズム事業

サイクリングイベント開催・支援

全国から来市するサイクリングイベント参加者が再来訪したくなるおもてなし事業を実施。また併せて、市民が自転車に乗る機会を創出する。サイクリングイベントは7月～10月を中心に開催し、レガシーとしてサイクリング好適地であることをPR。

サイクリスト受入れ環境の整備

サイクリストを理解し温かくもてなす地域社会を目指し、市民が自転車に親しむイベントやサイクリストの受入れ環境を整備する。また、市域を拠点とする自転車チームや企業と連携したサイクリスト誘客に取り組む。

サイクリングイベント開催・支援



富士山1周サイクリング

主催：(一社)ルーツ・スポーツ・ジャパン 共催：御殿場市

10月6日（日） 会場：富士山樹空の森 参加者：783名（北海道～熊本県から参加。東京都177名、神奈川県146名）

- ・年齢：12歳～78歳。年齢層最多：50代で252名。昨年（2023年：732名）と比べて51名の微増。
今回は募集期間を1ヵ月伸ばしたものの、目標人数(1,000名)には達しなかった。だが少しずつイベントへの参加者が戻ってきていることがうかがえる。ただし、リピーターの割合が32%と少ない。
- ・116kmのコースに6箇所設けた休憩所で地域グルメを提供した。
- ・御殿場西高等学校自転車部の生徒6名+顧問1名を招待し富士山1周サイクリングに参加いただき無事完走した。また、サイクリングに参加できなかった生徒3人もボランティアとしてゴールのお出迎えなど運営の手伝いをした。
- ・ステージ上では、市内空手団体による演武や滝ヶ原自衛隊雲海太鼓パフォーマンスも行い、参加者の疲れを癒した。
- ・富士山ごてんばサイクリングプロジェクト（FGCP）のメンバーがガイドサイクリストとして運営を支えた。



サイクリングイベント開催・支援



ジャパンピークス

主催：(一社)ルーツ・スポーツ・ジャパン 共催：御殿場市

8月19日（月）～1月13日（月） 申込者：653名（2023年度より116名(21%)増加）

・全国の名だたるヒルクライム10コースの一つとして富士山樹空の森をスタートに御殿場口または富士宮口五合目までをゴールとするコースをアプリ上に設定。登山道を有効活用する期間分散型イベントとして開催した。

- ・参加者自身のタイミングで御殿場に来市しヒルクライムを楽しんでいた。
- ・レベルの高いサイクリストの挑戦心をくすぐり、市内にあらゆる層のサイクリストを誘客した。
- ・イベント終盤にキャンペーンを実施。また、他のサイクリングイベント参加者へも周知することで、集客増加を図った。

Peak 1) 乗鞍岳畳平（長野／岐阜ステージ） Peak 2) 柳沢峠（山梨ステージ）

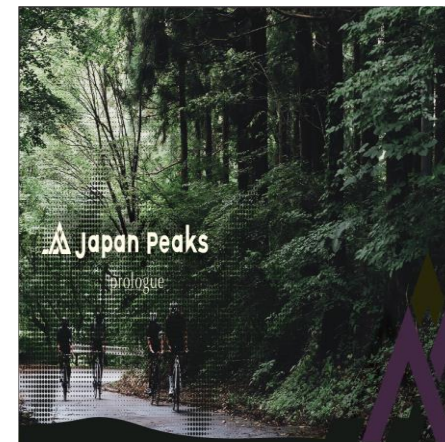
Peak 3) 富士山スカイライン（静岡ステージ）

Peak 4) 椿ライン（神奈川ステージ） Peak 5) 渋峠（長野／群馬ステージ）

Peak 6) 白石峠（埼玉ステージ） Peak 7) 筑波山（茨城ステージ）

Peak 8) 金精峠（栃木ステージ） Peak 9) 風張峠（東京ステージ）

Peak 10) 鹿野山（千葉ステージ）



サイクリスト受入れ環境の整備



富士山1周サイクリングと同時開催。多くの市民が富士いちのゴール者を温かくもてなした。特にランニングバイク体験は非常に人気であったため、今後体験会や教室の開催回数増加を目指したい。

GOTEMBA CYCLE FESTA

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

10月6日（日） 会場：富士山樹空の森 参加者：約3,100人

- ・多くの市民がサイクリストを理解し温かくもてなす地域社会を目指すため、富士山1周サイクリング（富士いち）ゴール時間にあわせ集客し、多くの市民が自転車に親しむ機会を創出した。
- ・集客強化のため目的を同じくする既存の地域イベントFuji Climb Festivalを同時開催。
- ・会場内にカウベルの音が響き渡るなど、富士いちの盛り上げにもつながった。
- ・午前中は雨天であったが、午後は回復し多くのお客様に楽しんでいただいた。

GOTEMBA CYCLE FESTAコンテンツ

- ・ランニングバイク体験（参加者：49名）
- ・富士いち完走者を貸出カウベルでおもてなし
- ・自転車グッズ販売（High Ambition2020jp.様協力）
- ・飲食販売（御殿場ベーカリービケット様、みくりやそば振舞隊 協力）

Fuji Climb Festivalコンテンツ（同時開催：御殿場ベーカリービケット主催）

- ・ワークショップ（イラストコンテスト、ポーセラーツ、キャンディレイ等）
- ・縁日（輪投げ、スーパーボールすくい等）



サイクリスト受入れ環境の整備



サイクリスト受入れ環境の整備

「ごてんばっ木」を使用したサイクルラックをファーマーズ御殿場に設置。
ナショナルサイクルルート指定に向け、御殿場駅乙女口観光協会敷地内にサイクリスト受入のためのゲートウェイを設置予定。
また、市内公共施設やコンビニに再度必要な設備を確認。R7に整備を行う予定。



ファーマーズ御殿場



御殿場駅乙女口サイクリングゲートウェイ設置予定場所



地元チームや企業とのサイクリスト誘客

主催：High Ambition2020 jp

親子自転車教室&富士山お花見ライド

3月29日(土) 会場：駒門浅間神社 参加者：8組19名の親子

・補助輪なし子供向け自転車教室

3月30日(日) 会場：御殿場市役所玉穂支所 発着 参加者：6名

・High Ambition女子メンバーと走るサイクリングイベント

04

スポーツイベント誘致・開催支援、 トップアスリートをみる機会の創出

東京2020大会を通してアスリートをみる・応援する・大会を支えることによる地域の一体感や活性化を経験した。今後もスポーツイベント誘致・開催支援・周知を行い、トップアスリート、特に市に関連あるアスリートをみる・応援する機会を継続的に創出していく。

スポーツイベント誘致・開催支援



県外からの参加者が多いトレイルイベントやモルックなどの大規模なスポーツイベントの開催支援を行ったほか、さらなるイベント誘客や富士山の麓でのスポーツ活動のPRを図るため、市内にあるランニング・サイクリングコースなどのスポーツ施設、運動後の温浴施設、観光情報を会場内で紹介した。

Mt.FUJI100 2024

主催：Mt.FUJI100実行委員会、共催：御殿場市

4月26日（金）～27日（日）

会場：富士山こどもの国～富士北麓公園富士山の銘水スタジアム

参加者数：3,570名※過去最多

（47都道府県から参加、最多は東京都702名、参加者の約50%が関東圏、海外32の国と地域からも参加）

- ・ゴール会場（富士北麓公園）で開催された「Mt.FUJI100 EXPO」にPRブースを出展。
- ・富士山周辺市町とともに観光PRのほか、カウベル貸出により大会の盛り上げに寄与した。



スポーツイベントの誘致・開催支援



ちいさなMt.FUJI100 2024

主催：株式会社アールビーズスポーツ 共催：御殿場市

9月7日（土）、8日（日） 会場：御殿場MTB&RUNパークFUTAGO

参加者数：7日（土）111名、8日（日）330名 計441名（北海道～大阪府）

- ・会場を昨年の富士山御殿場口新五合目から、一昨年までのMTB&RUNパークFUTAGOに戻し2日間開催された。
- ・1日目は15km、25kmコースのソロ及びリレー部門を行い、トレラン初心者の方も自然の中を走る楽しさを体感していた。
- ・2日目は1～3kmのキッズ及びファミリー部門を行い、子どもたちが元気いっぱい箱根の大自然を走り抜けた。
- ・市こだわり推奨品（金華豚カレー、富士山バウム、かすてら）を大会景品として提供した。
- ・会場内にPRブースを設置しカウベルの貸し出しを行ったほか、レース終了後には参加賞として地元さくら玉子シュークリーム（杉山養鶏場）をプレゼントした。
- ・また、ハンバーガーやクロッフルなどのキッチンカーが出店し賑わった。
- ・参加者からは「これからもトレランを続けたい！」「Mt.FUJI100の出場を目指したい！」などの声が聞かれ、トレランの楽しさ、達成感を味わっていた。



スポーツイベントの誘致・開催支援



第2回富士山カップ（モルック）

主催：NAKA-Möl Gotemba 協力：スポーツタウン御殿場推進協議会

8月3日（土） 会場：高根ふれあい広場

参加者数：62チーム（うち市内11チーム） 計200人超（岩手県～岡山県）

- ・ 6歳～70歳代まで、市内外から幅広い世代の方々が参加し白熱した試合を展開した。
- ・ 試合後には、参加者同士での記念撮影やチームオリジナル缶バッジの交換など、モルックを通して「富士山の麓でスポーツ交流」が行われた。
- ・ 開催広報のほか、市民団体が行う100人以上が参加するスポーツツーリズムイベント支援として10万を助成。



富士山グルメライド

主催：富士山ごてんばサイクリングプロジェクト

10月14日（月・祝） 会場：富士山樹空の森

- ・ 当日は晴天に恵まれグルメコース31名、健脚コース37名、ファミリーコース3名が参加した。
- ・ 富士山樹空の森を出発し御殿場、裾野、小山を地元ライダーがガイドをしながらサイクリングを楽しんだ。また、地元ボランティアが選りすぐりの地元グルメでおもてなしをした。
- ・ 市民団体が行う100人以上が参加するスポーツツーリズムイベント支援として10万円を助成。



トッパススリートをみる機会の創出

ホームページや市広報媒体などで積極的に情報発信を行ったほか、市民のスポーツをみる・応援する機会を年間を通して創出した。来年度も多く市民、所縁のあるアスリートの活躍を追い、市民の憧れや目標となるよう周知していく。

パリ2024オリンピック・パラリンピック

開催期間：オリンピック：7月26日～8月11日 パラリンピック：8月28日～9月8日

御殿場市応援アスリート10名が代表に選出されたことを受け、市内装飾やHPで情報発信を行い、市民の応援ムードを高めた。

- 【男子サッカー】・三戸舜介 選手（富士岡中学校出身）・植中朝日 選手（富士岡中学校出身）
- 【女子サッカー】・平尾知佳 選手（富士岡中学校出身）・守屋都弥 選手（富士岡中学校出身）
- ・大場朱羽 選手（JFAアカデミー福島出身）・石川璃音選手（JFAアカデミー福島出身）
- ・谷川萌々子 選手（JFAアカデミー福島出身）・古賀塔子 選手（JFAアカデミー福島出身）
- 【陸上競技 競歩】・川野将虎 選手（静岡県立御殿場南高等学校出身）
- 【パラ馬術】・吉越奏詞 選手

- ・出場選手や試合日程を紹介する応援タペストリーをJR御殿場駅東西自由に掲出。御殿場市役所本庁舎玄関前にも展示コーナーを設けた。
- ・大会情報、選手情報を詳細に紹介した特設ページを開設。
- ・応援アスリートに指定したことを証する「アスリート指定証」を制作し、大会後に各選手に贈呈した。



トッパスリートをみる機会の創出



トッパスリートをみる機会の創出・市民などの活躍情報発信

近隣で行われるスポーツイベントの広報および観戦勧奨

- ①市SNSやスポーツタウン御殿場HP上での告知
 - ・静岡ブルーレヴズ
4/13(土), 2025/3/22(土) 市民無料招待
 - ・清水エスパルス 7/6(土) シティプロモーション
 - ・アスルクラロ沼津 10/13(日) 市民無料招待
 - ・モータースポーツ 市民入場無料の案内

②広報ごてんばへの記事掲載

③しずおか市町対抗駅伝 応援タペストリーの制作

展示期間：11月13日(水)～12月2日(月)

展示場所：市体育館、けやき館、御殿場駅東西自由通路



清水エスパルス 市長表敬訪問



応援タペストリー

市民などの活躍情報発信

市長表敬訪問の様子を随時ホームページや市Facebookに掲載



⑤ 東京2020大会レガシー事業

トップアスリートとの交流、 スポーツを通じた共生社会の実現

市にゆかりある東京2020大会に出場したアスリートを始めとするオリンピック・パラリンピアンとの交流や、ボッチャやモルックなどの誰もが参加できるスポーツを体験する機会を創出し、世界を身近に感じてもらい、スポーツ振興・共生社会の理解促進に繋げる。

サイクルスポーツ・空手のまちづくり

東京2020大会ロードレースの開催会場、空手イタリア代表の東京2020大会事前合宿地として多くの地域住民が大会やトップアスリートと交流した。これらのレガシーを未来へ継承するため、サイクルスポーツや空手を活用したまちづくりを推進する。

トッパスリートとの交流

トッパスリートとの交流を通して、トッパスリートのメンタリティや身体能力を高さを体感し、競技振興やトッパスリートに憧れを持ち目指す、応援する機会を創出した。

トッパスリートとの交流

清水エスパルス サッカー教室 12月8日（日） 会場：市陸上競技場 参加者：約50人
JFAアカデミー福島出身で富士岡中学校卒業生でもある現役Jリーガーの山原怜音選手とエスパルスサッカースクールコーチ5名を迎え、3年生～6年生にサッカー教室を行った。参加した子どもたちはプロの技術を間近で見ることができ、更に直接アドバイスをもらうことができ、常に目を輝かせ楽しく教室に参加していた。



SAKURAN333 モルック教室 9月30日（月）

会場：御殿場市立原里小学校 参加者：小学校3年生 約65人

御殿場市出身でモルック世界大会2025in函館で世界第4位に輝いた和田貴裕選手が会長を務めるSAKURAN333（日本最大のモルックチーム）によるモルック教室を原里小学校3年生を対象に開催した。参加した子ども達は世界を舞台に活躍する選手の技術を間近でみられたことに加え、直接アドバイスをもらうことで、モルックの楽しさを知ることが出来た。



スポーツを通じた共生社会の実現



パラリンピアンとの交流やパラスポーツ体験、誰もが参加できるスポーツを活用した交流を通して、共生社会の実現に寄与した。

スポーツを通じた共生社会の実現

吉越奏詞選手講演会・馬とのふれあい会

2025年2月20日（木） 会場：県立御殿場特別支援学校 参加者：全校生徒

- ・パラリンピックに2大会連続で馬術競技の日本代表として出場している吉越奏詞選手が御殿場特別支援学校にて講演会を実施。
- ・講演会の前には吉越選手の練習拠点でもある、岡本ライディングクラブJAPANに協力していただき生徒と馬のふれあい会を実施。

<馬とのふれあい会>

- ・サラブレッド、ポニー、ミニチュアホースの計3頭にエサやり体験をしたり、直接触れてみたりと生徒たちは笑顔で参加していた。

<吉越奏詞選手講演会>

- ・吉越選手のパラリンピックの経験談や、乗馬のきっかけ、馬への愛情等貴重なお話を、生徒のみなさんにお話しいただいた。
- ・生徒からもいくつか質問が出たり、自分も将来のために努力したいと話す生徒もいた。



サイクルスポーツのまちづくり

東京2020大会ロードレース会場として協働した近隣自治体と連携したサイクリングイベントや子どもたちに自転車に触れるきっかけとなる事業を支援した。

静岡県、小山町、裾野市との連携事業

※【資料5】に詳細を記載

市単独では実施が困難な広域事業や、オリンピックレガシーを継承する事業を実施

- ・期間分散型サイクリングイベント「サイクルボール」

4月27日（土）～2月2日（日） 参加者 774名（うち御殿場市発着431名）

- ・サイクルボール富士いちチャレンジDAY

7月20日 参加者 40名

- ・国際自転車ロードレース大会の開催支援、観戦勧奨

キッズバイク教室の開催

主催：富士山ごてんばサイクリングプロジェクト

日時：8月26日（月）会場：原里第二保育園／日時：9月12日（木）会場：高根第一保育園

日時：9月14日（土）会場：印野こども園／日時：10月20日（日）会場：ごてんば線まつり

日時：2月17日（月）会場：こども園ぶらんこ／2月17日（月）会場：西保育園

自転車を通じた地域活性化を目指す取組みとして、オリンピック自転車競技が開催されたまちでひとりでも多くの子どもに自転車に乗る楽しみを知ってもらうことを目的に実施された。



空手のまちづくり



レガシー空手大会での空手キッズ演武や「空手」の書の展示、空手を通じた年代間交流、市内イベントにおける演武を行い、空手の魅力を伝えていった。今後も市民の皆さんにオリンピックレガシーとして空手文化を発信していく。

御殿場西高等学校空手道部と御殿場市空手キッズの交流事業について

日時：2024年6月8日（土） 会場：御殿場西高等学校空手道場

参加者：御殿場市内空手キッズ23名（小学5年生～中学3年生）

東京2020大会のレガシーとして、空手のまちづくりを推進していくにあたり、空手道KMFCの機運醸成のため、御殿場西高校空手道部に憧れる子どもの創出を目指す空手教室を実施した。



御殿場市空手キッズによる演武（夏祭りパレード・富士山一周サイクリングイベント）

日時：2024年8月3日（土） 会場：御殿場市二枚橋プラザ～杉原交差点

2024年10月6日（日） 会場：富士山樹空の森

参加者：夏祭りパレード⇒約30人

富士山一周サイクリングイベント⇒約50人

「空手のまちづくり」取組みの一環として、御殿場市空手道連盟所属の空手キッズによる演武が行われた。多くの市民が空手を知る機会となったことに加え、子ども達が日頃の稽古の成果を披露する場となった。



第三回空手道 Karetado Mt.Fuji Junior Championship in Gotemba

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

2024年12月1日（日） 会場：御殿場市体育館 来場者：約800人 Web配信閲覧者：17,000人以上

大会のコンセプトに賛同が得られ、世界空手連盟、全日本空手道連盟、静岡県空手道連盟が引き続き大会を後援。昨年度大会から引き続き全国・県高体連推薦選手が出場したことに加え、全日本空手道連盟ご協力のもと、全日本ジュニア強化選手が出場し、国内高校生年代トップクラスの大会を御殿場市空手道連盟の競技主管のもと大会を開催した。

大会コンセプト

- ・世界での活躍を目指す高校生のステップアップとなる大会
- ・空手や武道の魅力を空手発祥国日本の高校生を通じ国内外に発信する大会
- ・東京2020大会のレガシー大会として空手競技の普及に寄与し、オリンピック競技大会での空手競技採用に向けた機運醸成を兼ねる大会

来賓・ゲスト

- ・来賓として、笹川堯全日本空手道連盟会長、静岡県空手道連盟会長が来場、さらに世界空手連盟事務総長や東京2020オリンピックで空手イタリア代表として出場し、昨年度に御殿場市を訪問したブサト・マッティア選手、シルヴィア・セメラール選手からビデオメッセージを頂いた。
- ・ゲストとして、世界空手連盟国際審判員である南澤徹氏が審判監修に就任、御殿場西高等学校出身で全日本マスタース優勝経験があり、国際審判員の小島万記氏と東京2020大会出場の佐合尚人氏が本大会解説員を務めた。



空手のまちづくり



出場選手

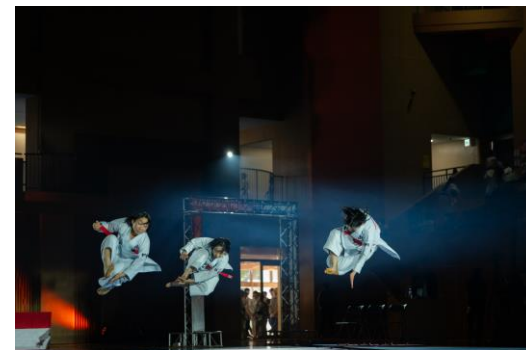
- ・ 御殿場西高等学校、日本航空高等学校（山梨）、福井工業大学附属福井高等学校（福井）
- ・ 全国高体連空手道専門部推薦枠（全国インターハイ男子個人組手上位者）
- ・ 静岡県高体連空手道専門部推薦枠（静岡県インターハイ男女団体組手上位4校から1名ずつ）
- ・ 全日本空手道連盟推薦選手（全日本ジュニア強化選手 2名）

大会の特徴

- ・ 高校年代日本代表クラスの選手のみが出場し、全ての試合で高いレベルを実現
- ・ 世界ジュニア選手権のルールを採用、
- ・ 「魅せる空手」を意識（少ないマット数、ライト演出、大型ビジョン、会場MC 等）
- ・ 生解説入りの動画配信により、空手や武道の魅力を国内外に発信

成果

- ・ 過去大会に引き続き選手、審判員、競技運営など多くの関係者のご理解とご協力が得られる大会となった。会場内には空手を親しむ子ども達が多く来場し、多くの市民が御殿場西高等学校をはじめとするトップアスリートを見る機会となった。
- ・ 空手を知らない市民が空手を「みる」機会を創出するため、様々な施策に取り組んだ。その結果昨年よりも多くの来場者数を数えた。



空手のまちづくり

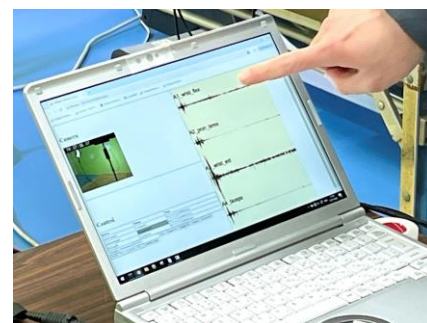
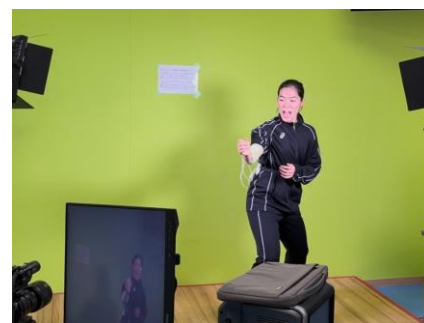


市内空手キッズによる演武・エスコートキッズの実施

- ・多くの市民が創り上げる大会とするため、御殿場市空手道連盟所属の尚空塾・真空塾空手キッズによる演武を開会式前・決勝戦前に行った。静寂の中、暗転した会場で行う演武は観客の視線を釘付けにした。
- ・トップアスリートを見る機会の創出の一環として、決勝戦に限り、選手入場の際に市内空手キッズによるエスコートキッズを実施した。普段出場する大会とは違う雰囲気の中、国内トップレベルの高校生達と同じ目線で緊張感を味わったことは子ども達の大きな経験となった。

名古屋大学との連携（産学官医連携）

- ・副業人材としてKMFCアドバイザーを務めている鈴木氏の紹介により、名古屋大学医学系研究科及び豊田合成(株)との連携が実現。大会会場内では、大会出場者や来場者に対し、「空手の動作」を通じて自らの体の特徴を知ってもらう機会を創出した。また、今後様々なイベントでブースを設置し、多くの方の空手の動作を通じて自分の体を知ってもらうとともに、採取したデータをもとに「競技者層」「一般層」の体づくりの基となるような運動等を創出していく。



空手のまちづくり



市内の小学生による「空手」の書を展示

- ・空手のまちづくりの目標にもある、市民が空手を語れるまちを目指す中で小学生の子ども達が会場に足を運び、全国トップクラスの大会を肌で感じ憧れの創出や、生きがいの創出の場となるよう市内小学生に「空手」の書を書いてもらい、それらを会場内に展示し、大会の雰囲気盛り上げた。



空手の発祥の地「沖縄空手」との連携

- ・空手発祥の地沖縄で空手振興を行っている「沖縄県空手道振興会」様に実際に来訪いただき沖縄空手紹介ブースを設置した。東京2020大会を契機に競技空手が国内外で盛り上がりを見せている中、来場者には発祥である伝統空手を通して、空手の根源を知ってもらう機会となった。



市民の誰もが来場できるキッチンカースペース

- ・市内内外の観客が多く来場する大会において地元グルメを紹介すること及び空手を知らない人でも会場に来やすい大会とすることを目的として、キッチンカーブースを設置した。御殿場のソウルフード「みくりやそば」をはじめとする、地元で人気の4店舗が出店し、観客のほとんどが御殿場グルメを堪能した。（みくりやそば160食完売）



空手のまちづくり



御殿場市空手キッズによるイタリアとの交流事業

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

日程：2025年3月24日（月）～3月30日（日）

場所：イタリア共和国 ラツィオ州 ローマ県（イタリア総合格闘技連盟：FIJLKAM）

参加者：御殿場市空手道連盟空手キッズ男女8名、御殿場市空手道連盟役員3名
良知副市長、その他随行者（御殿場市職員）計15名 +通訳者2名

交流に係る経緯

東京2020大会のホストタウンとして2017年から様々な交流を行ってきたイタリア総合格闘技連盟から、御殿場市および御殿場市内空手キッズに対しイタリア国内で行われる空手合宿等への招待があった。

8年間多くの人々が繋いできた東京2020大会のレガシーを未来へ継承発展していくものとして、現地を訪問し空手を通じた国際交流を行った。

交流内容

イタリア国内の同年代空手選手たちとの合同合宿、ローマ県内の道場訪問、
在イタリア日本国大使館訪問、イタリアオリンピック委員会訪問、ローマ県内視察 等



空手のまちづくり



空手イタリア中高生との合同合宿

- ・御殿場市空手キッズは空手イタリアカデット（14～15歳）代表選手8名とFIJLKAMにて、1週間の合宿を通して合同稽古を行なった。
普段の稽古とは異なる競技レベルの中で真剣に空手に取り組む子ども達は競技力のみならず、同年代のイタリア国内トップレベルの選手達の空手に対する姿勢を学んだ。また、食事やリフレッシュの時間には自らコミュニケーションをとり、イタリアの子ども達と親睦を深めた。



在イタリア日本大使館訪問

- ・在イタリア日本国大使館へ訪問し、大塚次席公使と対談した。
訪問団長である良知副市長から、これまでのイタリアとの交流に係るご協力に感謝を伝えるとともに、これからも空手を通じた国際交流を継続していく意向を伝えた。同席したイタリア空手連盟会長から御殿場市のイタリアに向けた歓迎に対してお褒めの言葉を頂いた。



イタリアオリンピック委員会（CONI）訪問

- ・イタリアオリンピック委員会では、歴史ある「スタディオ・オリンピコ・ディ・ローマ」やイタリアの保健中枢機関等の見学を行なった。
世界有数のスタジアムに足を踏み入れた子ども達は興奮しながらも、案内人の説明に耳を傾け、イタリアのスポーツ史を学んだ。



空手のまちづくり



FIJLKAM会長への挨拶

- ・ 訪問団長である良知副市長及び選手団長である御殿場市空手道連盟岩田理事長は、今回の交流事業を実現してくださったFIJLKAMの会長等へ挨拶を行い、東京2020大会の事前合宿から続く交流を今後も継続・発展していくことで意見が一致した。また、イタリアに入国してからの厚い歓迎に対してFIJLKAM会長へ感謝の意を伝えた。

オリンピックとの再会

- ・ 東京2020大会空手男子個人組手+75kg級金メダリストのルイジ・ブサ選手が合宿施設まで駆けつけ、世界王者との交流に子ども達は目を輝かせた。また、東京2020大会事前合宿から御殿場市と交流があり、2023年も空手イタリア選手団として、来市したマッティア・ブザト選手と再会を果たした。子ども達は緊張しながらも再会を心から喜び、今後も空手を通じて再会することを誓った。

全イタリア空手道選手権大会開会式参加

- ・ 合宿施設に隣接するアリーナにて全イタリア空手道選手権大会が開催され、訪問団が開会式に参加した。良知副市長及び空手キッズ代表が挨拶を行うとともに、会場内大型モニターには御殿場市長のビデオメッセージが放映され、その模様はイタリア全土に配信された。



2024スポーツイベント台湾ワークショップ



日時：11月8日 場所：Great SkyView Tien Kuo Hall (台北)

主催：台湾政府教育省スポーツ部局

「国際スポーツイベント×都市ブランディング」に焦点をあて、世界の都市代表者やスポーツ専門家を招いて事例を共有し、都市のプロモーションとブランド化されたスポーツイベントの開発を強化することを目的に、台北において、台湾政府教育省スポーツ部局が開催するワークショップへ、登壇者として32の官民団体に連携し取り組んでいる「スポーツタウン御殿場」の取り組みを紹介した。

台湾では、国内へのスポーツツーリズム客の取り込みを政府が積極的に行っており、2025年の「ワールドマスターズゲーム」（35歳以上のアマチュアスポーツの大会）の開催準備をすすめながら、大会期間中の参加者の国内周遊の施策を計画していた。

登壇者：日 本 御殿場市・札幌市
カ ナ ダ ハミルトン
リトアニア カウナス
イギリス



スポーツ・健康まちづくり表彰 3回目の受賞



スポーツ・健康まちづくり表彰2024 受賞

主催：スポーツ庁

日時：2025年1月23日（木） 会場：三田共用会議所（東京都港区）

全体参加者：スポーツ庁長官・審議官、各受賞自治体首長

市参加者：良知副市長、御殿場市スポーツ推進委員伊頭副委員長、

SAKURAN333 和田会長、NAKA-Möl Gotemba 田代代表

スポーツを活用し、地方創生・健康まちづくりを行う自治体の取組に対して、スポーツ庁が表彰をすることで、全国に広く周知する制度である「スポまち！表彰」において本市の取組が**3度目の受賞（県内初）**を頂いた。

御殿場市では令和4年に世界最大規模のモルックの大会が複数回開催されたことや、市内スポーツ団体、日本モルック協会公認団体である地元モルックチームによる普及活動が頻繁に行われるようになったことがきっかけで、学校の授業や地区の運動会にモルックが取り入れられるなど、老若男女問わず多くの市民がモルックに親しみ、当市が目指す市民ひとり1スポーツが着実に進んできた。これを機にスポーツタウン御殿場として推進する「**モルックを通じたスポーツ交流によるまちづくり**」が表彰された。

表彰式当日は市内スポーツ団体や地元モルックチームの代表者が出席し、室伏スポーツ庁長官からも励ましのお言葉を直接いただいた。



令和5年度におけるスポーツ関連宿泊者数 および消費支出について



○観光交流課で実施している宿泊数調査にあわせて、令和5年度の実績でスポーツ合宿、大会参加及び大会関係者（観戦者、モータースポーツ含む）の御殿場市内宿泊施設利用者数を調査。あわせて消費支出を算定した。

○令和5年度の御殿場市内宿泊者数116万人余のうち、**約2割がスポーツ関連宿泊者**であった。

☆スポーツ関連宿泊者による消費支出は、少なくとも**83億9千万円**があった

調査日時 令和6年7月～8月

調査対象 市内宿泊施設 65施設を対象

回 答 40施設

内 容 令和5年度の宿泊者のうちスポーツ合宿、スポーツ大会の出場又は関係者で宿泊施設を利用した人の数をアンケートにより調査。

令和5年度の静岡県における観光の流動実態と満足度調査報告書および御殿場市観光戦略プランの数値から消費支出を算出。



SPORTS TOWN.
GOTEMBA
富士山の麓でスポーツ交流